一休寺

原生同窓園

南庭は宗純王廟と虎丘を背景としてこれら建物の北部斜面を利用してサツキの刈込があり西部に大きい蘇鉄が植えられている典型的な江戸時代の禅苑庭園である。刈込から軒下までは白砂が敷き詰められておりさっぱりとした中に落ち着いた雅味をあたえている。
東庭は大小の石が立ちまた横になる様を十六羅漢になぞらえたとされる。北庭は禅院枯山水としての蓬莱庭園である。東北隅に約2メートルの巨石を配しいわゆる観音石として用いている。これに他の集団石組をもって枯滝落水の様子を表現している。
その昔、正面には木津川を上下する白帆を眺めることが出来、また晴れた日には比叡山を望んで楽しんだと言われる。これら三方からなる庭園は江戸初期のものとしては第一流であり当代庭園の白眉とされている。この作庭は石川丈山、松花堂昭乗、佐川田喜六の3名の合作とされている。

酬恩庵一休寺
〒610-0341 京田辺市薪里ノ内 102
HP | www.ikkyuji.org　TEL | 0774-62-0193

三本杉
鐘楼
旧墓地
本堂
少年一休像
浴室
宗純王廟
虎丘庵
開山堂
東司
唐門
方丈庭園
南庭
庫裏
宝蔵
参道
方丈
一休和尚碑
東庭
総門
北庭

虎丘庵（通常非公開）

Kokyu-an

虎丘庵はもと、京都東山の麓に在ったものを一休禅師74歳の時、応仁の乱のためこちらに移築したものである。

扁額「虎丘」の字は禅師によるものである。

茶室造りの静寂穏雅な建物で屋根は檜皮葺である。

周囲庭園は禅院枯山水のもので東部は七五三配石による特殊なもので大徳寺山内真珠庵の七五三庭園と同一手法によるものである。作者は茶道の祖といわれる村田珠光と伝えられている。

方丈

hojo

方丈は住職の接客や仏事を行うところである。

江戸時代慶安3年に加賀三代目藩主前田利常公の寄進により再建された。

同候は元和元年（一六一五）大阪夏の陣で大阪に向かう途中、当寺に参詣した。一休禅師への崇敬の念を起こすとともに寺の荒廃を嘆き酬恩庵再興に乗り出した。